

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	環境ライフスタイル普及小委員会	主 査 名：菅原 正則 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：伊香賀俊治
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境配慮建築（ハードウェア）が環境負荷低減を実現するためには、それに相応しいライフスタイル（ソフトウェア）を実践し、「住みこなす」ことが必要である。本小委員会では、それを「環境ライフスタイル」と称し、その実践のための教育体系づくりと広く普及されるための連携構築を目的とする。環境ライフスタイルに関する教材や実践事例を収集するとともに、その成果を学校教育や建築教育、生涯教育などに広く持続的に還元できる仕組みを模索する。</p> <p><初年度>①子ども・教育関係者向けワークショップの企画・実施、連携構築 ②環境ライフスタイルに関する実践事例の収集・分析、教育プログラムの評価・開発 <2年度>③子ども・教育関係者向けワークショップの企画・実施、連携構築 ④環境ライフスタイルに関する実践事例の収集・分析、教育プログラムの評価・開発 ⑤教材・実践事例テキストの叩き台を作成</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無： 無</p> <p>菅原正則（宮城教育大学）、田中稲子（横浜国立大学）、高橋達（東海大学）、斉藤雅也（札幌市立大学）、宿谷昌則（東京都市大学）、篠節子（篠計画工房）、妹尾理子（香川大学）、高柳有希（㈱UR リンケージ）、谷口新（大妻女子大学）、中島裕輔（工学院大学）、西川竜二（秋田大学）、平石年弘（明石工業高等専門学校）、廣瀬和徳（㈱教育環境研究所）、村田昌樹（OMソーラー㈱）、吉野泰子（日本大学）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2017 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無： あり 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/tkankyo/s1/

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	大会 PD「サステナブル社会実現のためのアジア地域における新しい暮らし方」におけるパネラー
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 本年度の活動計画について、①は子ども向けの科学イベントであるサイエンス・デイにおいて、委員が教育プログラムの実践を行った。②は大会での研究集会・学術講演や委員会において実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮技術を活用した環境学習授業（10/20～24、品川区および小平市内小学校）、参加者数 258 名／サイエンス・デイ出展「新聞紙で涼しい空間（クールエアドーム）を作ろう！」（7/19、東北大学）の後援、参加者数 20 名／教員免許状更新講習「家庭科の新しい知識（住居）」（8/10、宮城教育大学）、参加者数 14 名 ・シェルターモデルによる実験の出前授業（3/7、高円寺中学校） <p>2. 幹事の長期海外滞在ということもあり、委員会開催回数が 2 回に留まったが、環境ライフスタイルの実践・普及という主目的は、今年度も達成されたと考えている。</p>
委員会活動の問題点・課題	委員会開催数が少ないことによって、委員が各自で取り組んでいる実践事例の情報収集が滞り気味である。住環境教育テキストの叩き台作成を念頭に、来年度活動を進める必要がある。